

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

# 国文学研究資料館ニュース

No.4  
Summer  
2006



『大黒舞』

## 目次

- |                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| ■ 連続講演 .....2    | ■ トピックス .....5        |
| ■ お知らせ .....3    | 学術交流協定の締結             |
| 1月から3月まで閲覧室を閉じます | 春季特別展・シンポジウム          |
| 人間文化研究機構         | 海外の日本文学研究者との懇談会       |
| 第5回公開講演会・シンポジウム  | ■ 大学院教育 .....7        |
| 秋季特別展・シンポジウム     | 総合研究大学院大学平成19年度入学者募集  |
| 第30回 国際日本文学研究集会  | ■ コラム「名もない鳥たち」 .....8 |

## 連続講演

当館では、日本文学の普及を図るため、毎年一般市民・学生を対象に、連続講演を開催しています。

講師は、日本文学研究の第一線で活躍している研究者で、特定のテーマについて、計5回にわたり講演を行います。

今年度は、講師に跡見学園女子大学の神野藤昭夫をお招きし、「王朝物語山脈の眺望」というテーマで、以下の日程で講演をしていただきます。



- 第1回 9月25日(月) 新たなる物語の時代像－知られざる物語山塊の発見
- 第2回 10月2日(月) 古伝承から初期物語へ－最初の峰々と東アジア文化圏の波動
- 第3回 10月16日(月) 『伊勢物語』の物語史－歌物語とその尾根の行方
- 第4回 10月30日(月) 『源氏物語』の想像力と紫式部の知的坩堝－物語の山巔の形成
- 第5回 11月13日(月) 天喜三年齋院歌合「題物語」の復原－物語文化山脈の輝き

時間は各回ともに15:00～16:30となります。

場所：国文学研究資料館 大会議室<聴講無料>

定員：120名（応募者多数の場合は抽選）

応募方法：往復ハガキに、住所・氏名・所属を御記入の上、  
国文学研究資料館「連続講演」係まで  
(応募締切：平成18年8月18日)

### ☆☆講師紹介☆☆



神野藤昭夫 (かんのとう あきお)  
跡見学園女子大学文学部国文学科教授

早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了後、早稲田大学、聖心女子大学、駒沢大学、青山学院大学の講師を歴任。北京日本学術研究センター客員教授、NHK第二放送「古典講読」講師、NHK教育テレビ「古典への招待」講師などを務める。

#### 表紙絵解説「大黒舞（だいこくまい）」

室町末期～江戸初期頃成立と見られるお伽草子（作者不明）。「大悦（だいゑつ）物語」とも言う。掲出箇所は大黒天と恵比寿天が庭上で相撲をするくだり。軍配を持っているのが大悦の助。周囲には、大黒・恵比寿の眷属たちが列する。

## お知らせ

### ● 1月から3月まで閲覧室を閉じます

当館では、建物へのアスベスト含有及び飛散状況調査を平成17年11月から12月に行った結果、飛散はしていないものの含有が確認されたため、平成18年12月から平成19年3月の期間、順次除去工事を行う予定です。

については、除去工事期間中、閲覧業務を休止いたします。利用者の皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解、ご協力のほどお願いいたします。

平成18(2006)年  
12月

平成19(2007)年  
1月

4月

～12月26日まで  通常閲覧  ※12月27日～1月8日 は年末年始の休室	1月9日～4月1日 (閲覧業務の休止)  休止する業務 ・資料の来館利用(閲覧及び文献複写) ・相互利用(文献複写及び現物貸借、 郵送による文献複写) ・資料撮影掲載 ・展示貸出	4月2日～  閲覧業務再開
---	---	---------------------

### 人間文化研究機構 第5回公開講演会・シンポジウム

#### テーマ：「人はどんな手紙を書いたか」

#### — 近代日本とコミュニケーション —

今回の講演会・シンポジウムでは、手紙を書く人が飛躍的に増大する19世紀以降の日本の社会と文化を対象に、それぞれの講演者の専門領域・関心に基づき、手紙(ハガキ)についての具体的な事例を紹介しながら、手紙を読み・書きする実践のディテールを、新たな視点から見つめ直すことで、近代文化の新しい眺め方を、日本をフィールドとした研究から発信することを目指します。

講演者・パネリスト    ロバート キャンベル (東京大学助教授)  
                                  玉 蟲 敏 子 (武蔵野美術大学教授)  
                                  十 川 信 介 (学習院大学教授)  
                                  宮 地 正 人 (東京大学名誉教授)  
                                  安 田 常 雄 (国立歴史民俗博物館教授)

日時：平成18年9月30日(土) 13:30～17:00(開場13:00)

場所：一橋記念講堂 <入場無料>  
          東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター2F

申込は、住所・氏名・電話番号を記載の上、葉書、FAX又はメールで以下まで。  
 (※電話での受付はしていません。)

申込先：〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-13 秀和神谷町ビル2階  
          人間文化研究機構 総務課シンポジウム係  
          Fax: 03-6402-9240 E-mail: sinpo\_5@nihu.jp http://www.nihu.jp/

## 秋季特別展

### R O B U N 仮名垣魯文百覧会

いわゆる「近代小説」の黎明期にあって、江戸後期の戯作文学を継承する「開化期戯作」と呼ばれるジャンルが隆盛をみえています。この秋季特別展では、日本文学研究史において空白部分を多く残す幕末・明治開化期文学と、当時の戯作界の雄と目される仮名垣魯文の著作活動の全容を明らかにすることをテーマとしています。

日時：平成18年10月17日(火)～11月2日(木)  
(土・日曜を除く) 10:00～16:30

場所：国文学研究資料館 展示室<入場無料>

#### 展示予定書目

「西洋道中膝栗毛」「牛店雑談 安愚楽鍋」  
「高橋阿伝夜刃譚」を始め、「珍猫百覧会開筵」  
引札、魯文自筆原稿・葉書等。



## シンポジウム

### 江戸から明治へ — 仮名垣魯文を中心として —

#### パネリスト

佐々木亨 (徳島文理大学教授) 「魯文の時勢順応主義を考える」  
山本和明 (相愛大学教授) 「憧憬と継承—魯文の果たしたこと」  
青木稔弥 (神戸松蔭女子学院大学教授) 「魯文 vs 論吉」

#### コーディネーター

谷川恵一 (国文学研究資料館教授)

日時：平成18年10月20日(金) 16:00～18:00

場所：国文学研究資料館 大会議室<入場無料> 先着120名

## 第30回 国際日本文学研究集会

30th International Conference on Japanese Literature

### テーマ：「表象と表現」

当館では、日本文学研究者による研究発表・講演・討議により、広い視野からの日本文学研究の進展を図り、研究者相互の国際交流を深めるため、第30回国際日本文学研究集会を開催します。

日程：平成18年11月9日(木)～10日(金)

場所：国文学研究資料館 大会議室<入場無料>

参加申込締切：平成18年10月31日(火)

申込はレセプション参加の有無を記載の上(参加費1,000円)、郵送もしくはFAXで国文学研究資料館普及・連携事業部内「国際日本文学研究集会事務局」(FAX: 03-3785-7266)までお申込みください。

## トピックス

### ●学術交流協定の締結

当館では、今年3月、イタリア共和国内の複数の研究機関と学術交流協定を締結しました。

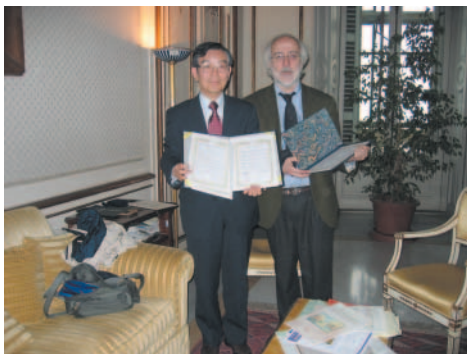


ヴェネツィア国立大学との調印式

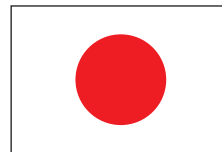
協定の調印には、伊井館長が直接イタリアに赴き、現地の日本文学研究者と交流を深めました。



イタリア国立アジア・アフリカ研究所との調印式



イタリア国立ナポリ東洋大学との調印式



### ●春季特別展・シンポジウム

当館では、5月10日から6月1日まで、春季特別展「〈みたて〉と〈やつし〉—浮世絵・歌舞伎・文芸」を、5月17日には、シンポジウム「表現としての〈やつし〉と〈みたて〉」を開催しました。

今回の展示では、江戸時代の文学を始め、浮世絵や歌舞伎にいたるまで、様々な分野で見られる「みたて」と「やつし」について、当館の所蔵資料を中心に、浮世絵・版本など75点が展示・紹介され、連日、多くの観覧者が訪れました。

17日のシンポジウムも盛況で、研究者・一般市民など176名が参加し、活発に討論、質疑応答が行われました。



ギャラリートーク風景



シンポジウムの様子

## ●海外の日本文学研究者との懇談会

当館では、今年度から海外の日本文学研究者を招き、その国における日本文学の研究状況等を伺いながら、意見や情報を交換し、研究者相互の継続した国際交流・研究交流を展開することを目的とした懇談会を開催しています。

第1回目は、4月25日にロシア作家同盟の翻訳家タチヤーナ・ソコロワ＝デリュシナ氏をお招きしました。同氏は、源氏物語のロシア語完訳全5巻を出版し、平成5年度国際交流奨励賞（国際交流基金）を受賞されています。

懇談は、タチヤーナ氏が源氏物語翻訳時に直面した問題点、苦勞した点、翻訳を進めているうちに分かったこと、翻訳に対する考えなどを中心に行われ



タチヤーナ・デリュシナ氏

ました。

源氏物語を通して日本とロシアの文学表現や描写の違い、ロシアでは理解・表現できない感覚、人間と自然への視点の違いなど興味深く、そのうえで言葉を乗り越えて通じ合う「人間の心を描く」文学のすばらしさを実感させられた懇談会でした。



第2回目は、5月16日に米国・コロンビア大学教授ハルオ・シラネ氏をお招きしました。同氏は、米国の日本文学研究の先駆者であり、古語と英語の辞書を初めて作られた方でもあります。本書「The Bridge of Dreams」は、1987年度に全米で刊行された研究書のうちの優れた研究書の一冊に選ばれています。

懇談は、米国での日本文学研究と、日本での日本文学研究との差異が中心的話題となり、日本よりも米国の方が



ハルオ・シラネ氏

日本文学研究が進んでいる面もあるという現状を感じさせる懇談会でした。



第3回目は、6月8日に英国・ケンブリッジ大学教授ピーター・コーニツキ氏をお招きしました。同氏は、当館で公開している「欧州所在日本古書総合目録データベース」の推進者であり、欧州における日本古典籍の所在情報を提供し、国内外の研究者に多大な貢献をしている方です。

懇談は、同氏が作成したデータベースに関する話題が中心でした。プロジェクト発足から18年、国文研に力が引き継がれ、公開されて5年のデータは、順次追加・更新が行われており、実際に入力業務に関わった人達も集ま



ピーター・コーニツキ氏

りました。

今後も同データベースの改善に意欲的な同氏の姿勢には、参加者も感心させられるばかりでした。

## 大学院教育

### ●総合研究大学院大学平成19年度入学者募集

総合研究大学院大学文化科学研究科に、日本文学研究専攻（博士後期課程）が設置されて、今年で4年目となりました。日本文学研究専攻は、国文学研究資料館を基盤機関としている大学院ですので、日本文学研究専攻に入学した大学院生は、国文学研究資料館において講義等を受け、国文学研究資料館に所属する教員から研究指導を受けます。現在、日本文学研究専攻には12名の大学院生及び1名の研究生が在籍しています。平安期から明治期までの、様々な分野の日本文学を研究していて、講義を受けたり、研究会に出席したり、学位論文を執筆したりしています。

この日本文学研究専攻の大きな特色は、日本文学研究専攻だけで、様々な領域を専門とする21名の教員がいることです。日本文学とその周辺の分野だけで、これだけの教員をそなえる大学院（後期課程）は、日本でも数少ないでしょう。さらに、複数指導教員制をとっているため、主指導教員1名、副指導教員2名の合計3名から、論文指導を受けることができます。

また、もう一つの大きな特色として、国文学研究資料館には、過去30年以上にわたって収集してきた、日本文学の原典である約20万点の資料がある、ということがあげられます。これらを縦横に活用しながら、研究することができるのです。また、共同研究会などに参加する機会が多くあることも、本専攻の特色と言えます。

この日本文学研究専攻は、博士後期課程だけの大学院です。現在在学している大学院が修士課程までしかないという場合、あるいは、ずっと前に修士課程を修了したけれど、研究に意欲を持っていて、できれば大学院博士後期課程に入って研究を続けたい、学位論文を書きたいという場合も多いと思います。そうした方々が、積極的に応募することができる大学院です。一学年の定員は3名です。

願書受付・入試日程等は以下のとおりです。審査方法は、修士論文等の論文と、面接試験で、語学試験等はありません。

## 平成19年度入学者募集

総合研究大学院大学

入学試験説明会：平成18年10月13日（金）13:00～ 田中優子氏（法政大学社会学部教授）の講演会があります。  
15:00～ 説明会

願書受付：平成18年12月8日（金）～14日（木）必着

面接審査：平成19年2月7日（水）～8日（木）

募集要項請求及びお問い合わせ先

○国文学研究資料館○

管理部総務課研究協力係  
〒142-8585  
東京都品川区豊町1-16-10  
TEL 03-3785-7131（内210）  
<http://www.nijl.ac.jp/>

日本文学研究専攻ホームページ  
<http://www.nijl.ac.jp/~kyodo/soken.files/index.html>

○総合研究大学院大学○

学務課学務企画室学生厚生係  
〒240-0193  
神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）  
TEL 0486-58-1500（代表）  
<http://www.soken.ac.jp/>

コ ラ ム

名もない鳥たち

名誉教授 丑木幸男

今年の3月に国文研を退職後、早朝サイクリングを楽しんでいる。利根川の支流井野川沿いに整備されているサイクリングロードを2時間ほどかけて走っている。鴨や川鶺が小魚を漁り、まれに雉が飛び立つ。そのほか名もない鳥たちがさえずり交っている。南は群馬県高崎市南方の群馬の森まで、北は高崎市を抜けて群馬郡群馬町から箕郷町境まで行ける、快適な自転車専用道路だ。

ところが今年の1月に群馬町や箕郷町など5市町村が合併して新高崎市が生まれ、今年の秋にはさらに1町を合併することが決まった。平成の市町村大合併である。そのうち群馬町では江戸時代以来の集落名を大字に使用し、群馬町の地名は消えた。

わが国では明治、昭和、平成と3回の大規模合併を行い、ほぼ97%の町村を廃絶したのである。引き続いて道州制の検討が始まっており、都道府県の廃絶が議論されるまでになった。合併自体の是非はともかく、役場がなくなるたびに、そこで作成・保存してきたアーカイブズが失われてしまうことが危惧される。明治・昭和の町村合併後、数しれない役場史料が散佚した経験を踏まえ、3度も同じ轍を踏まないように史料保存運動が高まってはいるが、楽観を許さない状況だ。

近代になって廃絶された行政組織として明治22年の戸長役場、大正15年の郡役所がある。近世・近代移行期にあたる

戸長役場史料は、一部を町村役場に引き継いだり、それ以外は戸長の自宅に保存されている事例が多い。公私分離の不徹底が史料保存に有効であったのである。それに対して、郡役所史料は府県庁に引き継いだ一部の史料以外はすべて廃棄された。公私分離を明確にしたために、行政機関が責任を持たない限り保存することはできないのである（市町村合併後、意図的に廃棄する事例もあるが）。廃絶された組織はその職員・関係者が新組織に在任している間は、関係史料を辛うじて保存するが、それもなくなると倉庫に放置され、老朽化に伴い倉庫とともに廃棄という、不作為により散佚した事例が多い。

平成の合併により町の名前もなくなり、アーカイブズもなくなり、その町の歴史も記憶もすべて消え、アイデンティティをどうやって確保できるのだろうか？ そんなことを考えながら走っていると、名もない鳥たちが飛び立った。草花も野鳥も名前がないはずがない。ただ私が知らないだけだ。あわてて野鳥図鑑を調べてコヨシキリであることを確認した。

しばらくはサイクリングを楽しみながら、野草や野鳥を観察し、少しずつでも名前を覚えておきたい。市町村、郡や将来的には府県の地名も公式には消えてしまっても、なるべく多く記憶にとどめておきたい。記憶とともに、そこに生きた住民の活動の記録であるアーカイブズを大事にしたいものである。



国文学研究資料館ニュース No. 4

発行日 平成18年 7月 31日  
編集 広報委員会  
発行 人間文化研究機構 国文学研究資料館  
National Institute of Japanese Literature  
〒142-8585 東京都品川区豊町1-16-10  
TEL:03-3785-7131 Fax:03-5751-7166 <http://www.nijl.ac.jp>  
印刷所 有限会社 スミダ

©人間文化研究機構 禁無断転載

当館では、古典籍及び図書の寄贈を受け付けております。御刊行・御所蔵の資料を広く研究に活用させていただくために、皆様のご協力をお願いいたします。